るブユの種類, 分布状態, 環境との関係等について調査を行つた。その結果全地点においてブユの棲息がみられ 12 種が得られた。そのうち本流には *S. (S.) japonicum*, *S. (S.) kawamurae*, *S. (S.) venustum*, *S. (O.) bidentatum*, *S. (O.) aokii* が, 支流には *S. (E.) subcostatum*, *S. (E.) uchidai*, *S. (S.) japonicum*, *S. (S.) venustum*, *S. (E.) yamayaense*, *S. (O.) aokii* が多く棲息し, わずかの湧水にも *S. (E.) subcostatum* が, また水量の少い細流には *S. (E.) uchidai* がみられた。更に幼虫蛹の分布を垂直的に考察すると源流部より 600 m 附近までは *S. (S.) japonicum*, 600 m~300 m 附近までの中腹部には *S. (E.) subcostatum*, *S. (E.) yamayaense*, *S. (E.) uchidai* がみられ 300 m 以下の山麓部においては *S. (S.) venustum*, *S. (O.) aokii*, *S. (O.) bidentatum*, *S. (E.) uchidai*, *S. (G.) nacojapi*, *S. (E.) latipes* がそれぞれ場所をこにして棲息し, 平野部では *S. (O.) aokii*, *S. (S.) venustum*, *S. (W.) salopiense* が混棲している。従つて本水系の上流部では *S. (S.) japonicum* が, 源流附近で *S. (S.) venustum* が山脚部において優占種であり *S. (S.) japonicum*, *S. (E.) yamayaense* は高地性種の代表としてあらわれ, 広い流れを好むものには *S. (S.) kawamurae* が, 細流を好むものには *S. (E.) uchidai* があげられる。また個体数, 棲息密棲度の多い場所は支流が本流に合流する地点である。

(名古屋女学院短大)

✓汚水貯溜そう並びに防火用水内のアカイエカ幼虫に対する Lindane 乳剤撒布の 1 例: 馬場道夫 Baba, M.: A case of Lindane emulsion spray against the larvae of *Culex pipiens pallens* in a fertilizer-pit and water-tank

ハエと蚊の撲滅運動が全国各地に於て行われているがその実施方法についてもう少し検討する必要があることを痛感し 1958 年 6 月 30 日~8 月 30 日の間福島県海岸部落の汚水貯溜そう 2 カ所と町内の防火用水 1 カ所を選び市販の 10 % Lindane 乳剤による簡単な実験を行つたので報告する。先ず各槽別に表面積及び容積を測定し撒布は伝予法施規の基準に従つて 100× を基準として 200×, 300× と表面積 1 m² 当り 500 cc の割合にて均一に撒布した。観察は 3~4 令幼虫及び蛹について行い測定については 3 つの槽内を白糸を用いて一定区劃に仕切り区劃内に浮上している 3~4 令幼虫をカウンタにて測定した。この測定は綿密に実施しても誤差を生ずるので 2 回実施しその誤差を修正した。但し sink している幼

虫は測定できなかつた。A 槽 (角汚水 100×) は表面積 1.41 m² 容積 0.52 m³ にして撒布前 2448 匹の幼虫が 1 日後には 48 匹, 2 日後には 6 匹, 3 日には 3 匹, 5 日には 18 匹, 10 日には 305 匹, 15 日目には 1869 匹である。B 槽 (丸汚水 200×) は表面積 1.81 m² 容積 0.45 m³ にして撒布前 2982 匹の幼虫が 1 日後には 39 匹, 2 日には 5 匹, 3 日には 4 匹, 5 日には 28 匹, 7 日には 45 匹 10 日には 325 匹, 15 日後には 2123 匹である。C 槽 (丸, 防火用水 300×) は表面積 0.24 m² 容積 0.14 m³ にして撒布前 323 匹の幼虫が 1 日後には 21 匹, 2 日には 4 匹, 3 日には 4 匹, 5 日には 29 匹, 7 日には 39 匹, 10 日には 180 匹, 15 日後には 288 匹である。A, B, C の 3 槽に 10 % Lindane 乳剤を夫々 100×, 200×, 300× と与えた場合に一定容器内に於ては 300× でも相当の効果が認められる。又蛹も相当の効果を認められる。2 日後に完全に近い程減少した幼虫が 7 日目頃から回復し始め 15 日目に完全に回復している所から見れば月 1, 2 回の撒布では極めて不充分であり 200× を 10 日に 1 回定期的に撒布する必要がある。尚各槽に棲息して居つた蚊は *Culex pipiens pallens* である。その他若干の種類を見たが対象外にした, この期間の気温は 25°C~33°C 水温 24°C~29°C であつた。(福島県浪江保健所)

✓イエバエの夜間静止場所について (第 2 報): 大利茂久・下釜勝 Ori, S. & Shimogama, M.: On the resting habits of housefly (2nd report)

残留噴霧或は薬液浸漬コード法によつて, イエバエ成虫を駆除する場合の基礎となるものは, イエバエの夜間静止場所の選択性についての知見である。吾々はこれを究明するために昭和 32 年以来研究を続けているが, 本年 (昭和 33 年度) も 6 月 20~27 日, 9 月 30 日~10 月 7 日の 2 回に亘つて, 長崎市内の有畜農家 2 戸について, 各家の全天井面 1 m² 当り 1 本の割合に蠅取りポンを吊り, 連続 7 日間のイエバエ付着数を調べた。屋内を使用目的に従つていくつかの部分に区分して, 下屋を含めた各区分毎の捕獲率をみると, 調査した季節と家によつて著しい相違があるが, 全体としてみると, 台所, 台所から玄関に通ずる土間及び食事部屋等の天井に特に集中的に多く全捕獲数の 55~75 % を占める。畜舎では 1~29 %, 堆肥舎では 1~10 %, 納屋, 物置等では 0~11 %, 居室, 縁側, 便所, 浴場等では非常に少なく 0~8 % であつた。

畜舎や堆肥舎で本年度は可成り多い場合があつたが, 6 月の調査では 2 戸の夫々の畜舎で 7 %, 29 %, 堆肥舎